

【別紙1-2】

1. 希少植物の生息域外保全活動 植物栽培方法等の比較表

(注1) 実生……種子から発芽した苗を育てること

(注2) 少なくとも平日(毎日)の管理ができる場合の育てやすさ

	種名 (科名)	レッドデータブック 記載ランク(国、府)	花期	自生地の環境	栽培環境・方法 (容器栽培として)		殖やし方 【交雑しやすい植物 は実生(※1)を推奨 しない】	育てやすさ(注 2) 5(易)~1(難)
					日照	水やりの注意		
A	フタバアオイ (ウマノスズクサ科)	—	3~5月	落葉樹林下	春先は明るい場所、5月以降は半日陰、盛夏は日陰に置く。	水はけの良い土で、ムシないように。5月~9月は乾燥に注意する。	株分け、実生	3
B	フジバカマ (キク科)	環境省準絶滅危惧(NT) 京都府絶滅寸前種	9月下旬~10月	川の堤防、水田 周辺などの明るい水辺	日当たり好むが、盛夏の西日は苦手。	盛夏は腰水灌水、1日2回(灌水が不可能なら日射を避ける)。	株分け、挿し芽	4
C	ヒオウギ (アヤメ科)	京都府準絶滅危惧種	7月中旬~9月	海岸の草地、海岸林、山の草地	日当たり好む。	乾燥には強いが、花期前・盛夏は日射と乾燥による葉焼けに注意。	株分け、実生	5
D	キクタニギク (キク科)	環境省準絶滅危惧(NT) 京都府絶滅危惧種	10月下旬~11月	乾いた川の法面、 山麓の土手	日当たり好むが、盛夏の日射は苦手。短日植物であり、夜間照明の近くに置かない。	乾燥にはやや強いが、盛夏は乾燥に注意。	挿し芽	4
E	オミナエシ (スイカズラ科)	京都府準絶滅危惧種	8月~10月	日当りの良い湿った草地	日当たり好む。	夏は乾燥に注意。	株分け、実生	4
G	アヤメ (アヤメ科)	京都府絶滅危惧種	5月	山地のやや乾いた草原	日当たり好む。	乾燥には強いが、盛夏は乾燥に注意。	株分け(1~2年に1度の植替え時)	5
H	ワレモコウ (バラ科)	—	7月~10月	山間の草地、水田 周りなどの里草地	日当たり好むが、盛夏はできれば半日陰が良い。	夏は乾燥に注意。他の季節はやや乾燥気味に。	実生	4
M	イワギボウシ (キジカクシ科)	京都府準絶滅危惧種	8月~9月	山中の湿った岩上や樹上	春先は明るい場所、5月以降~秋は半日陰で育てる。	湿気を好み、乾燥には強くない。表土が乾いたら十分に灌水。	株分け、実生	4